

◆各新人の研究・業務内容

試験調査船ひのくにの調査業務について

試験調査船ひのくに 原口 慧

はじめに

試験調査船「ひのくに」は令和2年（2020年）10月に竣工しました。最新の航法装置、調査装置を備え、熊本県沿岸域における海洋観測、資源生態調査、漁場環境調査などを行っています。



図1 令和2年（2020年）に竣工した「ひのくに」

調査内容

本船が主に行っている3種類の調査について紹介します。

沖合海洋観測等調査

天草海域にてCTD（図2）等を用いた海洋観測及びLNPネット（図3）の鉛直曳きによる卵稚仔の採取を行う調査です。



図2 降下中のCTD

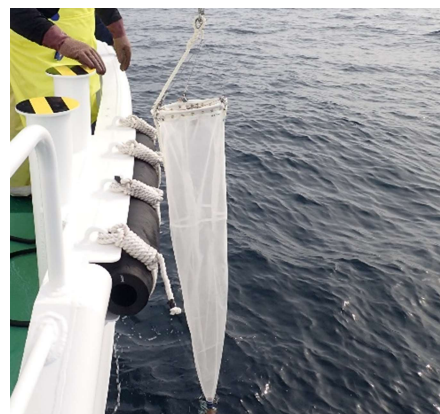


図3 降下中のLNPネット

浅海定線調査及び内湾調査

毎月朔の大潮時、浅海定線調査（有明海）及び内湾調査（八代海）を実施し、バンドーン採水器（図4）、クロロテック（図5）等の各調査機器を用いた海洋観測・採水及びプランクトンネット（図6）の鉛直曳きによるプランクトン採取を行う調査です。



図4 バンドーン採水器



図5 クロロテック



図6 プランクトンネット

沿岸資源動向調査

有明海、八代海、天草灘にて、CTD（図2）等を用いた海洋観測及び本船船尾から表層と中層の2網の丸稚ネット（図7）を5分間水平曳きし、浮遊期仔稚魚類の採取（図8、図9）を行う調査です。

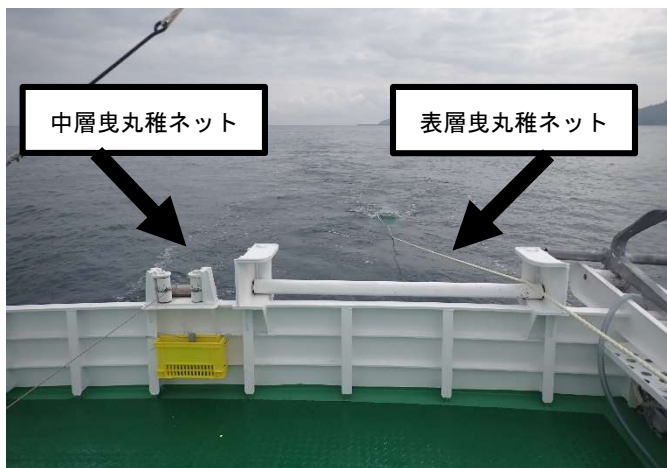


図7 丸稚ネット曳網中



図8 網洗い中



図9 仔稚魚類サンプル採取中

また、上記以外にも、赤潮が発生した際に行う赤潮臨時調査、魚群探知機やマルチビームソナーを用いた海底地形調査など、年間を通して様々な調査を行っています。